

リ凡テアダムノ罪ヨリ起リタル此等ノ結果ハ其後裔ニ及
 ビ且此序ヲ追テ及ビタリ第一彼等ハ本來ノ公義ナキ者ト
 ナリ第二性質腐敗セル者トナリ第三永死ヲ受クベキ者ト
 ナレリ人若シ其理由如何ト問ハ、唯一ノ答アリ曰アダム
 ハ人類ノ自然ノ始祖ナルガ故ニ神ハ彼ヲ立テ其代理トナ
 シ且神ハ審判者トシテ此アダムト人類トノ關係ヲ以テア
 ダムノ罪ノ結果ヲ人類ノ上ニ及スノ正當ナル理由ト做ス
 也是レ即チ前ニ辨シタルガ如ク使徒パウロガ羅馬五ノ十
 二ヨリ二十一ニ於テ明示スル所ノ答ナリパウロハ萬民ノ
 罪ニ定メラレタルハ各自ノ罪ニ由ルニ非ズシテアダムノ
 罪ニ由ル事ヲ再三明示セリ例ヘバ十二節ニ然レバ是レ一

人ヨリ罪ノ世ニ入り罪ヨリ死(即チ罰)ノ來リ人皆罪ヲ犯セ
 バ死(即チ罰)ノ凡ノ人ニ及ヒタルカ如シト云フガ如シ
 (第三) 此説ハ假僞ノ原理ニ基ク者ナリ然ルニ此説ヲ唱フ
 ル者ハ假僞ノ原理即チ人ハ正當ニ他人ノ罪ノ爲ニ罰セラ
 ル、コト能ハズト云フ事ヲ以テ一議論トナス也然レモ罰
 トハ何ノ謂ナル乎律法ヲ維持セン爲ニ加ヘラレタル禍害
 又ハ苦難ノ意義ニ外ナラザルナリ若シ其間ニ十分ノ一致
 アルガ故ニ他人ノ罪ノ爲ニ罰ヲ受ルコトアルモ何ノ不義
 アラシヤ決シテ之ナキ也邪念若クハ復讐ノ念ヨリシ或ハ
 何モ主意ナクシテ人ニ苦難ヲ加フルハ固ヨリ不義タルヲ
 免レズ然レモ神ノ律法ヲ維持セン爲ニ苦難ヲ加フルハ決

シテ不義タル可ラス萬人皆アダムの罪ニ由テ實ニ苦難ヲ受ルコトハ凡テ聖書ヲ信ズル者ノ拒ムコト能ハザル所ナリ然レモ聖書ハ此等ノ苦難ハ刑罰ノ性質ヲ含有スル事即チ一人ノ罪ニ由テ萬人罪ニ定メラレタル事ヲ明言スアダムハ若シ神ノ定ニ由テ唯ニ人類ノ始祖タル耳ナラズ其代理タラバ彼等モ行ノ契約ニ關係アル者ナリ果シテ然ラバ其契約ニ附着セル刑罰ヲ彼等ノ上ニ神ガ加ヘ給フノ公義タルコト明白ナリ然レモ若シ此説ノ基ク所正理ニシテ人ハ如何ナル場合ニ於テモ他人ノ罪ノ爲ニ罰ヲ受ルハ不義ナリトセバ人類ガ腐敗セル性質ヲ承繼スルモ亦不義ナラズヤ加之ナラズ人ガ他人ノ罪ノ爲ニ罰ヲ受ルハ不義ナリ

トセバ神ガ父ノ罪ヲ子ニ報ユルモ不義ナラズヤ(出埃及二十ノ五)キリストガ世ノ始ヨリ以來殺サレタル預言者ノ血ハ當時ノ人々ノ頭上ニ報來ラント明言シ給ヘルモ亦不義ナラズヤ(馬太二十三ノ二十九ヨリ三十六)又ユダヤ人民ガキリストヲ棄タルガ爲ニ爾來今日ニ至ル迄其子孫ガ苦難ニ逢フモ亦不義ナリト云フベシ若シ果シテ此説ノ基ク所ノ原理眞ナラバ神ガ世界ト教會トヲ統治スルノ道ハ不義不正ナリト云ハザルヲ得ズ要スルニ此説ハ人類ノ罪惡アル有様ハ如何ニシテアダムの罪ヨリ及ビシヤトノ問ニ對シテ十分ノ答辨ヲ爲サル者ナリ

第三 又此ニ他ノ一説アリ曰萬人皆アダムの罪ヨリ腐敗セル

性質ヲ承繼シ之ガ爲ニ罪ヲ犯スノ傾向アリ然レモ此生來ノ腐敗ハ罪ニ非ズ又人ヲシテ罪ヲ受クベキ者タラシムル者ニ非ズト且曰此大禍惡ヲシテ人ノ生ル、時ニ當テ萬人ノ上ニ來ラシムルハ神ノ公義ニ悖ラズ蓋之ヲ然ラシムル所以ノ者ニアリ第一神ハ更ニ偏倚スル所ナク天下萬民ノ爲ニ設ラレタルキリストノ贖罪ニ於テ十分ニ此大禍惡ヲ償フノ道ヲ立タルヲ第二萬人ニ賜ハリ且萬人ニ善ヲ行フノ能力ヲ復シ而シテ萬人ニ十分ノ責任ヲモ復スル所ノ神ノ恩惠ノ感化力アル事是レナリ是故ニ此説ニ由レバ小兒ハ罪ナキ者ナリ誰ニテモ神ヨリ賜ハリタル此善ヲ行フノ能力ヲ妄用スル迄ハ罪ナキ者ナリトス

此説ニ就テハ我儕ノ批評左ノ如シ

(第一) 間歸説ニ就テ評論シタル所ハ大抵此説ニモ適當ス此説ハ人類ノ腐敗セル有様ハ如何ニシテアダムノ罪ヨリ及ビタル乎トノ問ニ十分ノ答辨ヲ爲サ、ルナリ凡テ此説ヲ取ル者モ人皆アダムヨリ腐敗セル性質ヲ承繼シ之ガ爲ニ罪ヲ犯スノ傾向アルコトヲ許容シ而シテ動植物界ノ定法タル同類能ク同類ヲ生ズトノ法則ニ由テ之ヲ解説シ人類モ亦此法則ニ漏レズト云フ即チアダムハ本來ノ公義ヲ失ヒ腐敗シタルガ故ニアダムハ其腐敗セル性質ヲ子孫後裔ニ傳フルナリト云フ此説ニ由レバ人類ノ腐敗セル有様ハ唯萬人其子孫トシテアダムト自然ノ關係アルガ故ノミ

是レ能ク人類ノ腐敗セル有様ノ實事ヲ説明スト雖其腐敗セル所以ヲ解説セザルナリ我儕ノ問題ハ此腐敗セル有様ハ如何ニシテアダムノ罪ヨリ人類一般ニ及ビタル乎ト云フニアリ然リ而テ我儕ハアダムガ罪ヲ犯シタル時ニハ神ノ定ニ由テ唯ニ人類ノ始祖タルノミナラズ其代理タリシガ故ニ神ガアダムノ罪ニ就テ威嚇シタル罰ヲ各人ノ上ニ及スハ即チ當然ノ事ナリト云フ事ニ於テ其答ヲ發見スル也

(第二) 聖經中ニ神ハアダムノ後裔ノ承繼シタル腐敗ノ賠償トシテキリストノ贖罪ヲ立タリト教フル所ナシ聖經ニ由レバ此贖罪ハ賠償ニハ非ズ救世ノ方法ナリ加之ナラズ

未ダ曾テ此贖罪ノ事ヲ聞カザル者無數ナルコトハ拒ムベカラザル實事ニシテ全ク此説ニ反スル也

(第三) キリストノ贖罪ハ偏頗ナク萬人ノ爲ニ設ケラレタルヤ否ヤハ後ニ論ズベシ然レモ神ハ各人ニ善ヲ行ハシムルニ足ルノ恩恵ヲ賜フト云フ事ト誰モ此能力ヲ妄用セザル中ハ罪ナシト云フ事ハ重生ノ性質ト必要ニ就テキリストノ教ヘ給ヘル所ト相反スルコト明白ナリ又羅馬五ノ十八等ノパウロノ教トモ相反セリ曰一ノ罪ヨリ罪セラルコトノ凡ノ人ニ及ビシ如ク云ヤ(人ノ能力ニ就テ既ニ辨論セル所ヲ参考スベシ)

(第四) 小兒ノ事ニ就テハ左ノ如ク評スベシ今羅馬書ヨリ

引キタル本文ニ由テ此説ノ非ナルコト明白ナリ何トナレ
バ此本文ハ凡テ人タル者ハアダムノ罪ニ由テ罪ニ定メラ
レタル者トナセバナリ加之ナラズ罪ヲ犯スノ傾向ト雖亦
惡ニシテ神ノ聖意ニ合ハザルコト明白ナリ何トナレバ凡
テ不潔ナル事ハ皆神ノ聖意ニ合ハザレバ也前ニモ既ニ述
タルガ如ク凡テ幼稚ニシテ死スル者ノ救ハル、コトハ我
儕モ亦之ヲ信シテ疑ハズ然レモ是レ彼等ハ罪ニ定メラレ
ザルガ故ニ非ズ但キリストノ大ナル恩惠ニ由テ罪ヨリ救
出サル、ガ故ナリ

(第五) 此説ニ由レバ人ノ承經シタル腐敗ハ罪ニ非ズシテ
唯不幸ニ過ズトス然レモ縱令一步ヲ讓リ之ヲ許容スルト

モ神ガ人類ノ上ニ此不幸ヲ及バシメタルハ不義ナラズヤ
トノ疑問起ルベシ我儕ハ人類トアダムノ自然ノ關係ヲ以
テ腐敗セル性質ノ萬人ニ及ビタル其方法ト認ムレモアダ
ムガ人類ニ對シテ代理ノ關係アルコトヲ以テ神ガ之ヲ許
シタル公義ヲ發見スル也

(第四) 又此ニ他ノ一説アリ凡テ靈魂ニ前世ノ存在アリ人
皆前世ニ於テ罪ヲ犯シタリトシ而シテ彼等ガ現世ニ於テ
腐敗シタルハ即チ前世ニ於テ犯シタル罪ノ罰ナリトス
蓋此説ハ異教ノ哲學ニ基キ元來ピタゴラスプラトウノ教
ヨリ出タル者ナリオリシン其他初代ノ學者中ニモ此説ヲ
取リタル者アレモキリスト教會ニ於テ之ヲ取リタルコト

ナキガ故ニキリスト教神學ニハ屬セザルナリ且之ヲ取レ
 ル者モ敢テ之ヲ聖經ノ教ト主張シタルニ非ズ唯聖經ノ教
 ニ背カズト主張シタル耳然レモ此說ノ聖經ニ合ハザルコ
 ト明白ナリ何トナレハ聖經ニ由レバ人ハ知識ト公義ト聖
 潔ニ於テハ神ノ像ニ象リテ創造セラレタル者ニシテ前世
 ニ於テ罪ヲ犯シタルニ非ズ現世ニ於テ罪ヲ犯シ而シテ其
 本來造ラレタル有様ヨリ墮落シタルナリ且聖經ハ明白ニ
 アダムノ罪ヲ以テ人類ノ罪アル有様ノ原因トナス也
 (第五) 又他ノ一說アリ曰人類ハ全體一ニシテアダムニ於
 テモ各人ニ於テモ同一體タリ故ニアダムガ罪ヲ犯シタル
 時ニハ人類全體罪ヲ犯シタル也ト是レアダムハ其後裔ノ

代理タリシト云フニ非ズアダムガ罪ヲ犯シタル時ニ彼等
 モ現在シテ罪ヲ犯シタルナリ故ニ初罪ノ結果タル腐敗ノ
 有様ノ實ニ人類全體ニ屬スルコト猶アダム自ラニ屬スル
 ガ如シトス故ニ其說ニ曰アダムノ罪ハ我儕ニ歸セラル、
 ガ故ニ我儕ノ罪トナルニ非ズシテ其眞實正當ニ我儕ノ罪
 タルガ故ニ我儕ニ歸セラル、也ト
 又此說ト大同小異ニシテ人類全體ヲアダムニ在テ一體ト
 爲シ而シテアダムガ罪ヲ犯シタル時ニ彼等モ亦實ニ罪ヲ
 犯シタリトナセドモアダムト其後裔ハ同一體タルガ故ニ
 一ナルニ非ズ但神ガ彼等ヲ此ノ如ク見做サント定メタル
 ガ故ニ一ナリト主張スル者アリ

此等ノ諸説ニ對シテ左ノ緊要ナル故障アリ

(第一) 此等ノ諸説ハ聖經ニ據ル所ナシ實ニ聖經ハ我儕ノ
アダムト一ナルコトヲ教フ然レモ是レ我儕ハアダムト同
一體ナリトノ意義ニ非ル也實ニ聖經ハキリスト信徒ハキ
リストト一ナルコトヲ教ユ然レモ是レ
信徒ハキリストト同一體又ハ相互ニ同一體ナリトノ意義
ニハ非ル也但此等ノ教ハ我儕ガアダム並ニキリスト並ニ
他ノ信徒ニ對シテ有スル所ノ關係ニ就テ言ヘルナリ我儕
ハアダムト一ナリ何トナレバアダムハ人類ノ始祖タルノ
德ニ由テ我儕ノ代理トナリタレバ也我儕ハキリストト一
ナリ何トナレバ我儕ハ信仰ニ由テキリストト合シ之ヲ我

ガ靈ナル首又代理トナセバ也我儕ハ他ノ信徒ト一ナリ何
トナレバ我儕ハ皆キリストト合スルガ故ニ靈ナル一家族
トナレバナリ然レモ我儕ハ實ニキリストノ行ヒタル事ヲ
行ヒタリトノ意義ニ非ズ又アダムガ罪ヲ犯シタル時ニ我
儕ハ實ニアダムノ行ヒタル事ヲ行ヒタリトノ意義ニハ非
ルナリキリストノ行爲ハ我儕ノ行爲ニ非ズ之ニ反シテ我
儕ハキリストガ我儕ノ代理トシテ行ヒタル事ノ爲ニ義ト
セラル、也此ノ如クアダムノ罪モ亦我儕ノ罪ニ非ズ然レ
モ我儕ハ其罪ノ爲ニ罪ニ定メラル、ナリ是レ他ナシアダ
ムハ我儕ノ代理ナレバ也

(第二) 此等ノ諸説ハ人ノ意識ニ悖ル何トナレバ各人自己

ノ意識ニ由テ自ラ誰トモ知理有意ノ同一體ニ非ズシテ各自殊別ノ悟性並ニ意志責任アルコトヲ知レバ也

(第三) 此等ノ諸説ハ原罪ノ問題ヲ解説セズ蓋此等ノ諸説ヲ解説セント試ル所ノ者ニアリ即チアダムノ罪ニ因テ我儕ガ罰セラル、事並ニ我儕生來ノ腐敗ハ眞實正當ニ罪タル事即チ是レ唯腐敗ニ非ズシテ我儕ヲシテ罰ヲ受クベキ者タラシムル事はレナリ而シテアダムノ罪ニ由テ我儕ノ罰セラル、事ハ其罪ハ即チ我儕自身ノ行ナリト云ヒテ之ヲ解説シ我儕生來ノ腐敗ハ眞實正當ニ罪タルコトハ是レ即チ我儕自身ノ行ノ結果ナリト云ヒテ解説セント欲ス然レモ其實此等ノ説ハ決シテ此二事中ノ一ヲモ解説セザル

也何トナレバ大凡惡事ノ我儕自身ノ罪ニシテ之ガ爲ニ罰ヲ受クベキ事ヲ感ズルニハ我儕自ラ之ヲ行ヒタル感覺ナカルベカラズ然レモ我儕ハ未ダ生レザル前ニ有ラザル所ヲ爲シタル感覺アルコト能ハザル也我儕キリストト共ニ死シ又之ト共ニ甦リタルト云ヒ又キリストノ死ハ即チ我儕ノ死ニシテ其甦ハ即チ我儕ノ甦ナリト云フトモキリストトハ我儕ノ代理トナリテ働キタリトノ意義ニ由テ解スルコトヲ得ベシ然レモ我儕ハ實ニキリストニ在テ死シ且甦リタリト云フハ意義ナキ言語ヲ用ユル也又アダムニ在テ萬人死シタリト云ヒ其死ハ即チ我儕ノ死其罪ハ即チ我儕ノ代理ナリト云フトモ彼ハ即チ行ノ契約ニ於テ我儕ノ代

理ナリトノ意義ニ由テ解スルコトヲ得ベシ然レモ我儕ハ
 實ニアダムニ在テ罪ヲ犯シタリト云フハ意義ナキ言語ヲ
 用ユル也
 加之ナラズ果シテ此等ノ説ノ如クニシテ人類皆アダム並
 ニ各人ニ於テ同一體ニシテ而テ其故ニアダムガ罪ヲ犯シ
 タル時ニ人類悉ク罪ヲ犯シタリトセバ特ニアダムノ罪ノ
 爲ノミニ罰セラレテエバノ罪ノ爲ニ罰セラレザルハ如何
 蓋人類ハアダムノ罪ニ對シテハエバノ罪ニ對シテ有セザ
 ル所ノ關係ヲ有スルコトハ聖經ニ於テ明白ナル實事ナリ
 我儕ノアダムノ罪ノ爲ニ罪ニ定メラレタリトアレモエバ
 ノ罪ノ爲ナリトハ決シテアラザル也是レ他ナシアダムハ

即チ我儕ノ代理ナレバ神ガアダムト契約ヲ立タルコトハ
 猶其後アブラハムト契約ヲ立テ、サラト立ザリシガ如ク
 然リ是故ヲ以テ我儕ハ唯ニアダムノ罪ノミ我儕ニ歸セラ
 レテエバノ罪ノ歸セラレザル所以ヲ知ルベシ然レモ此等
 ノ諸説ニ由テハ此所以ヲ解スベカラズ何トナレバ最初ニ
 罪ヲ犯シタルハアダムニ非ズシテエバナレバ也

要スルニ人性ノ腐敗ハ如何ニシテアダムノ罪ヨリ我儕ニ
 及ビシ乎トノ問ニ満足ノ答辨ヲ爲ス者ハ唯我儕ガ最初ニ
 講究シタル所ノ説即チ直歸説耳此説ハ論説ト云フヨリモ
 寧ロ聖經ニ記セル事實ヲ明白ニ叙述セル者ト稱シテ可ナ
 リ

第十七章 實罪

原罪ノ外ニ亦神學ニ於テ所謂實罪ナル者アリ實罪トハ即チ神ノ律法ノ禁ズル所ヲ爲シ又ハ爲サント欲スル事及ビ神ノ律法ノ命ズル所ヲ爲サズ又ハ爲スヲ欲セザル事ヲ云フ我儕ハ之ニ就テ五事ヲ講窮スベシ第一其根源第二性質第三廣處第四程度第五種類

第一 實罪ノ根源ハ即チ吾人生來ノ腐敗セル有様ニアリ實罪ハ原罪ノ結果ナリ詩篇五十一ノ五ニ曰視ヨ我愆ニ於ニ形ラレ我母罪ニ於テ我ヲ妊メリ此詩ハ母ノ罪ヲ説タルニ非ズ己ノ罪アル有様ヲ説タルナリ而シテ其罪ヲ生來固有ノ罪アル有様ニ歸スル也

第二 實罪ノ性質

一 是レ本來惡ニシテ推諉スベキヤウナク又形體上ノ禍惡ノ根原ナリ羅馬第二章參考

二 是レ唯言語行爲ノミニアラズシテ思想願望ニアリ馬太五ノ廿七廿八ニ曰古ノ人ニ告テ姦淫スルコト勿レト言ヘルコアルハ汝等ガ聞シ所ナリ然ド我汝等ニ告ン凡ソ婦ヲ見テ色情ヲ起ス者ハ中心時ニ姦淫シタル也馬太十二ノ三十六ニ曰我汝等ニ告ン凡テ人ノ云フ所ノ虛言ハ審判ノ日ニ之ヲ訴ヘザルヲ得シ羅馬七ノ八ニ曰而シテ罪ハ誠ノ機ニ乘テ我中ニ様々ノ貪慾ヲ起セリ前哥林六ノ九ト十二ニ曰汝等義カラザル者ノ神ノ國ヲ嗣グコトヲ得ザルヲ知ラ

ザルカ汝等自ラ欺ク勿レ凡テ淫ヲ行ヒ又ハ偶像ヲ拜ミ又ハ姦淫ヲ爲シ又ハ男娼トナリ又ハ男色ヲ行ヒ又ハ竊盜又ハ貪婪又ハ沉湎又ハ罵詈又ハ強奪者ナドハ神ノ國ヲ嗣グコトヲ得ザル也雅各四ノ十七ニ曰人善ヲ行フコトヲ知リテ之ヲ行ハザルハ罪ナリ創世六ノ五馬太十ノ三十三馬可七ノ二十ヨリ二十三以弗所五ノ三ヨリ五或羅馬教徒ハ思想願望ハ行爲ニ顯ハレザレバ罪ニ非ズト教ヘタリ然レモ聖書ノ教ハ全ク之ト相反セリ

略問答ニハ罪トハ凡テ神ノ律法ヲ守ラザル事ト之ヲ犯スコト也ト解釋セリ是レ即チ聖經ノ明白ナル教ナリ第一約翰三ノ四ニハ罪トハ即チ不法ナル事ナリトアリ(原文ニ由

ル)

既ニ論辨シタルガ如ク良心ハ人ソ爲スベキ事ト爲スベカラザル事トヲ告グ且道德的ノ主宰アルコトヲ告グ是故ニ罪トハ唯吾人存在ノ律法ヲ犯ス事ニ非ズシテ至尊無上ノ立法官即チ神ノ權威ヲ犯ス事ナリ其行爲ニ顯ハルト心ノ有様ニアルトヲ論セズ凡テ神ノ律法ニ適ハザル事ハ是レ皆罪ナリトス

第三 實罪ノ廣處

一 萬人皆此罪アリ羅馬八ノ七ト八ニ曰ソハ肉ノ事ヲ思フハ神ニ乖ルガ故ナリ是神ノ律法ニ服ハバ又服フコト能ハザルニ因ル而シテ肉ニ居ル者ハ神ノ心ニ適フコト能ハ

又加拉三ノ二十二ニ曰然レモ聖書ハ反テ萬人ヲ罪ノ下ニ
拘幽タリ是ハキリストヲ信ズルニ由レル約束ノ者ヲ諸ノ
信徒ニ賜ハラシガ爲ナリ第一約翰五ノ十九ニ曰舉世ハ惡
者ニ服スルヲ我儕ハ知ル雅各十五ノ十五羅馬三ノ九ト十
參考

二 萬人ノ思想言行等凡テ其爲ス所皆此罪アルヲ免レズ
如何ナル行ニ於テモ絶對完全ノ道德アルコトナシキリス
トノ徒ト雖尙我儕ノ罪ヲ赦シ給ヘト祈ラザルヲ得ザル也
第四 實罪ノ程度ニ罪ニ輕重アリ此罪ハ彼ノ罪ニ比シテ
一層重大ナリトス然レモ如何ナル輕少ノ罪ト雖律法ノ全
體ヲ犯スナリ雅各二ノ十ト十一ニ曰人律法ヲ悉ク守ルト

モ若シ其一ニ蹟カバ是レ全體ヲ犯スナリ夫レ姦淫スル勿
レト言ヘル者又殺ス勿レト言ヘバ汝等姦淫セズトモ若シ
殺スコトヲセバ律法ヲ犯ス者トナル也路加十二ノ四十七
ト四十八參考

第五 實罪ノ種類

ローマ教徒ハ一切ノ罪ヲ分テ所謂應死罪可赦罪ノ二種トナ
ス應死罪トハ重要ナル事ニ就テ故意ニ神ノ誠命ニ背クコ
トヲ云ヒ可赦罪トハ些小ノ事ニ就テ全ク肯ゼズ又ハ深ク
思慮セズシテ犯シタル罪ヲ云フ而シテ曰此罪ヲ犯ス者ハ
幾分カ神ノ恩惠ヲ失フト雖全ク之ヲ失フニ至ラズト又曰
應死罪ヲ以テ死スル者ハ地獄ニ往テ遂ニ贖ハルハコトナ

シト雖唯可赦罪ヲ以テ死スル者ハ煉獄ニ於テ潔メラルト
 然レモ聖經ニ於テハ曾テ應死罪可赦罪ノ區別ヲ立タルコ
 トナシ反テキリストノ贖アルニ非レバ凡ノ罪皆死ニ當ル
 コトヲ教ユル也加拉三ノ十二日律法ノ書ニ載タル凡ノ事
 ヲ恆ニ行ハザル者ハ詛ハルト録サレタレバナリ雅各二ノ
 十二日人律法ヲ悉ク守ルトモ若其一ニ躓カバ是レ全體ヲ
 犯ス也
 實罪ヲ區別スルノ法種々アリト雖孰レモ完全ナル者ニ非
 ス
 一 或ハ其對シテ罪ヲ犯シタル者ニ由テ區別スルコトアリ

神ニ對シテ犯シタル罪羅馬二ノ二十三ニ日汝律法ニ誇リ
 自ラ律法ヲ犯シテ神ヲ輕シムル乎提多一ノ十六參考
 他人ニ對シテ犯シタル罪前帖撒五ノ十五ニ日汝慎テ惡ヲ
 以テ惡ニ報ルコトナク云々馬太七ノ一ヨリ五雅各四ノ十
 一第一約翰二ノ九參考
 自身ニ對シテ犯シタル罪前哥林六ノ十八ニ日淫ヲ行フ者
 ハ己ガ身ヲ汚スナリ
 然レモ凡テ罪ハ神ニ對シテ犯ス者ナリ詩篇五ノ十一ノ四
 ニ日汝ニ對シ唯汝ニ對シテ我罪ヲ犯シタリ前哥林八ノ十
 二參考
 二 或ハ又罪人ト神ノ律法トノ關係ニ就テ區別ヲ立ルコ

シト雖唯可赦罪ヲ以テ死スル者ハ煉獄ニ於テ潔メラルト
 然レモ聖經ニ於テハ曾テ應死罪可赦罪ノ區別ヲ立タルコ
 トナシ反テキリストノ贖アルニ非レバ凡ノ罪皆死ニ當ル
 コトヲ教ユル也加拉三ノ十二曰律法ノ書ニ載タル凡ノ事
 ヲ恆ニ行ハザル者ハ詛ハルト録サレタレバナリ雅各三ノ
 十ニ曰人律法ヲ悉ク守ルトモ若其一ニ蹟カバ是レ全體ヲ
 犯ス也
 實罪ヲ區別スルノ法種々アリト雖孰レモ完全ナル者ニ非
 ス
 一 或ハ其對シテ罪ヲ犯シタル者ニ由テ區別スルコトアリ

神ニ對シテ犯シタル罪羅馬二ノ二十三ニ曰汝律法ニ誇リ
 自ラ律法ヲ犯シテ神ヲ輕シムル乎提多一ノ十六參考
 他人ニ對シテ犯シタル罪前帖撒五ノ十五ニ曰汝慎テ惡ヲ
 以テ惡ニ報ルコトナク云々馬太七ノ一ヨリ五雅各四ノ十
 一第一約翰二ノ九參考

自身ニ對シテ犯シタル罪前哥林六ノ十八ニ曰淫ヲ行フ者
 ハ己ガ身ヲ汚スナリ

然レモ凡テ罪ハ神ニ對シテ犯ス者ナリ詩篇五ノ十一ノ四
 ニ曰汝ニ對シ唯汝ニ對シテ我罪ヲ犯シタリ前哥林八ノ十
 二參考

二 或ハ又罪人ト神ノ律法トノ關係ニ就テ區別ヲ立ルコ

トアリ
 現行ノ罪、馬太二十七ノ四ニ曰無辜ノ血ヲ付シ我ハ罪ヲ犯
 シヌ
 遺失ノ罪、雅各四ノ十七ニ曰人善ヲ行フ事ヲ知テ之ヲ行ハ
 ガルハ罪ナリ
 三 或ハ又罪ノ顯ハル、有様ニ由テ區別ヲ立ルコアリ
 思想即チ心ノ罪、箴言十六ノ五ニ曰凡テ心ノ驕ル者ハエホ
 バニ惡マル、約百二十一ノ二十七、希伯四ノ七、後彼得三ノ十
 四人
 言語即チ口ノ罪、羅馬三ノ十三、十四ニ曰其喉ハ破レシ墳其
 舌ハ譌ヲ作シ其唇ニハ腹ノ毒ヲ藏テリ其口ハ詛ト苦トニ

テ満チ云々
 行爲即チ手足等ノ罪、羅馬三ノ十五ニ曰其足ハ血ヲ流サン
 ガ爲ニ疾シ、馬太五ノ三十參考
 四 或ハ又其罪ノ受クベキ刑罰ノ輕重ニ由テ區別ヲ立ル
 コトアリ
 光明及ビ知識ニ背キテ犯シタル罪、路加十二ノ四十七ニ曰
 僕主人ノ心ヲ知ナガラ預備セズ亦其心ニ從ハザル者ハ扑
 タル、コト多カラシ雅各四ノ十七參考
 不知シ罪、路加十二ノ四十八ニ曰知ズシテ扑ルベキ事ヲ作
 シ者ハ扑ル、事モ少カラシ以弗四ノ十八參考
 五 或ハ又秘密ノ罪、顯明ノ罪ニ由テ區別スルコトアリ前

提摩五ノ二十四ニ曰或人ノ罪ハ明カニシテ其人ニ先チテ
 審判ノ場ニ往キ或人ノ罪ハ後ニ從フ以弗五ノ十二參考
 六 或ハ又重生者ノ罪未重生者ノ罪ニ由テ區別スルコト
 アリ路加十一ノ四ニ曰我儕ノ罪ヲモ赦シ給ヘ箴言三十ノ
 十二ニ曰己ノ目ニ自ラ潔者トナシ尙其汚ヲ洗ハザル類アリ
 七 或ハ又可赦罪不可赦罪ニ由テ區別スルコトアリ凡ノ
 罪皆赦サル、コトヲ得ベシト雖唯所謂聖靈ニ背キテ犯シ
 タル罪ハ赦サル、コトヲ得ズ馬太十二ノ三十一ニ曰人々
 ノ凡テ犯ス所ノ罪ト神ヲ瀆スコトハ赦サレン然ド人々ノ
 聖靈ヲ瀆スコトハ赦サル可ラズ

不可赦罪即チ聖靈ニ對シテ犯シタル罪ノ事

我儕ハ之ニ就テ四ノ事ヲ講窮セン第一聖靈ニ背キテ犯ス
 罪トハ何ヲ云フ乎第二赦ス可ラズトハ何ノ意義ナル乎第
 三何故ニ赦ス可ラザル乎第四今尙之ヲ犯スコトヲ得ル乎
 第一 聖靈ニ背テ犯ス罪トハ何ノ意義ナル乎

先ツ第一ニ是ハ信徒ノ犯シ得ベキ罪ニ非ルコトヲ知ルベシ
 何トナレバ凡テ信徒ノ罪ハ唯ニ赦サル、コトヲ得ベキ耳
 ナラズ既ニ赦サレタレバ也又聖靈ノ神タルコトヲ拒ム事
 ニモ非ズ何トナレバ人或ハ知ラズシテ之ヲ拒ムコトアル
 ベケレバ也是レ聖靈ニ逆ヒ又ハ之ヲ憂ヘシムル事(行傳七
 ノ五十一、以弗四ノ三十)即チ聖靈ノ感化ニ抗敵シ又ハ神ノ

榮ノ爲ニ其賜ヲ祈ルコトヲ忘ル事ニ非ズ是レ固ヨリ重罪ナリ然レモ不可赦罪ニハ非ズ又唯識リツ、犯ス所ノ罪ニ非ズ神ノ人民ヲ迫害スル事ニ非ズパウロハ嘗テ神ノ教會ニ迫害シタレモ後其罪ヲ赦サレタリ又墮落スル事ニモ非ズペテロハ三次已ノ主ヲ拒ミ而モ誓テ拒ミタレモ後ニ赦サレタリ又信徒モ時トシテ惱マサル、所ノ邪念又ハ誘瀆ニモ非ズ

聖靈ニ背テ犯ス罪トハ一種特別ノ罪ニシテ凡テ他ノ罪ト區別セラル故ニ其意義ヲ解釋スルニハ唯神ガ已ノ言ニ於テ之ニ含マシメ給ヘル所ノ事ノミヲ含マシムベキ也聖經中ニ之ヲ説ク所左ノ如シ

二 馬太十二ノ三十一、三十二ニ曰是故ニ汝等ニ告シ人々ノ凡テ犯ス所ノ罪ト神ヲ瀆スコトハ赦サレン然ド人々ノ聖靈ヲ瀆スコトハ赦サル可ラズ言ヲ以テ人ノ子ニ背ク者ハ赦サルベシ然ド言ヲ以テ聖靈ニ背ク者ハ今世ニ於テモ亦來世ニ於テモ赦サル可ラズ馬可三ノ二十八ヨリ三十ニ曰我誠ニ汝等ニ告シ人ノ凡ノ罪ト瀆ス所ノ瀆ハ赦サルベケレド聖靈ヲ瀆ス者ハ限ナク赦サル可ラズ限ナキ刑罰ニ與カラン斯ク言ヘルハ人々イエスヲ惡鬼ニ憑レタリト言ルガ故ナリ

此等ノ本文ニ由テ之ヲ觀レバ此罪ニハ四ノ事ヲ含有スル也第一公言唯ニ心ノ罪ニ非ズ正シク言語ニ發セザル可ラ

二(第二)故意ノ虚言(第三)惡意(第四)瀆神(彼等ハキリストノ奇跡ヲ惡鬼ノ所爲トナシタリ)

ハ不注意ノ失言ニ非ズ全ク神ヲ惡ム心ヨリ發シタル言ナリ

二 希伯六ノ四ヨリ六ニ曰ソハ一次光明ヲ得天ノ賜ヲ受ケ聖靈ヲ蒙リ神ノ善言ト來世ノ權能トヲ嘗テ後墮落スル者ハ神ノ子ヲ再ビ十字架ニ釘テ顯辱トスルガ故ニ復之ヲ悔改ニ立返ラスルコト能ハサル也此ニ由テ之ヲ觀レバ此罪ノ重キ所以ハ神ノ子ヲ再ビ十字架ニ釘チ而テ之ヲ顯辱トスルニアル也

三 希伯十ノ二十六ト二十七ニ曰若シ我儕眞理ヲ悟ラセ

ラレシ後尙放縱ニ罪ヲ犯サバ罪ヲ贖ヒ犠牲又有ルコトナク惟恐レテ審判ヲ待ツ事ト仇敵ヲ焚滅サントスル烈火ノ遺ル也此ニハ首トシテ此罪ノ故意ニ出ルコトヲ説ケリ

四 第一約翰五ノ十六ニ曰若シ人其兄弟ノ死ニ至ラザル罪ヲ犯スヲ見バ祈テ死ニ至ラザル罪ヲ犯ス者ニ生ヲ予フベシ死ニ至ル罪アリ我之ガ爲ニ祈レト言ハズ此ニハ唯此罪ノ恐ルベキ結果ヲ説ケリ

此等ノ本文ニ由テ之ヲ觀ルニ此聖靈ニ背テ犯ス罪トハ即チ聖靈ノ直接ノ感能ニ由テ行ハレ且奇跡ニ由テ證明セラレタル主イエスキリストノ行爲宣教ヲ惡鬼ノ所爲ト爲ス事ナリ故ニ自ラ誑ト識リツ、惡意ヨリ之ヲ公言シテ神ノ

所爲ニ對敵シ而テ聖靈ヲ瀆ス事ナリ
 第二 此罪ハ赦サル可ラズトハ何ノ意義ナル乎
 或ハ是レ唯特別ニ重罪ナルガ故ニ特別ノ悔改ヲ要スト
 義ナリト解説シタリ然レモ聖靈ノ言ハ明白ニシテ且強シ
 曰今世ニ於テモ來世ニ於テモ赦サル可ラズ又曰限ナク赦
 サル可ラズ限ナク刑罰ニ與カラント此等ノ語ハ唯此罪ノ
 全ク赦サル可ラザル事ノ意義ヲ示ザルヲ得ザル也
 第三 何故ニ此罪ハ赦ス可ラザル乎
 此事ニ就テハ我儕宜ク極テ注意ヲ加フベシ此間ニ對シテ
 ハ唯一ノ明白ナル答アルガ如シ即チ神自ノ主權ニ由テ斯
 ク定メ給ヒシガ故ノミ

第四 此罪ハ今尙犯シ得ベキ乎

此事ニ就テモ亦宜ク極テ注意ヲ加フベキナリ然レモ人若
 シ眞理ニ就テ奇跡ノ証據ニ均シキ程ノ証據ヲ予ヘラレタ
 ルニモ拘ハラズ故意且惡意ヲ以テキリストノ行爲ヲ惡鬼
 ニ歸シ而テキリストノ福音ヲ厭惡スルノ意ヨリ此僞ヲ公
 言スルコトアラバ此ノ如キ人ハ即チ聖靈ニ背テ赦ス可ラ
 ザルノ罪ヲ犯ス者ナリト斷言スルコトヲ得ベシ
 然レモ此罪ヲ犯セバ神ノ靈全ク其罪人ヲ離レテ再ビ之ト
 争フコトヲ爲ズ而テ彼ハ増ス罪惡ニ沈淪シテ悔改スル能
 ハザルコトヲ記憶スベシ又自ラ此罪ヲ犯シタリト思惟シ
 テ恐懼スル者アル時ハ其之ヲ恐懼スルハ即チ之ヲ犯サ

ル徵證タルコトヲ記臆スベシ且赦罪ヲ願フシ念アル時ハ
殊ニ然リトス

人性論畢

正誤

(アピロヂ子シス)ハ(アピオヂ子シス)ノ誤

十二丁

能ハズノ下ヤヲ脱ス

十三丁

並ニ其ノ下他ヲ脱ス

卅七丁

部分ノ下ニヲ脱ス

五十九丁

惡無ハ無惡ノ誤

百十丁

羅馬五ノ二ハ五ノ十二ノ誤

百十七丁

創世卅三ノ十五ヨリ十九ハ三ノ十五ヨリ十九ノ誤

百十九丁

其身ニハ身ヲノ誤

百廿二丁

人間ノ下ノヲ脱ス

百四十二丁

之ヲハ之ヲノ誤

百四十二丁

時ニハ既ニノ誤

二百十三丁

詩篇五ノ十一ノ四ハ五十一ノ四ノ誤

二百十九丁

釘チハ釘ケノ誤

二百廿六丁

明治十九年十一月十七日出版御届

譯者兼出版人

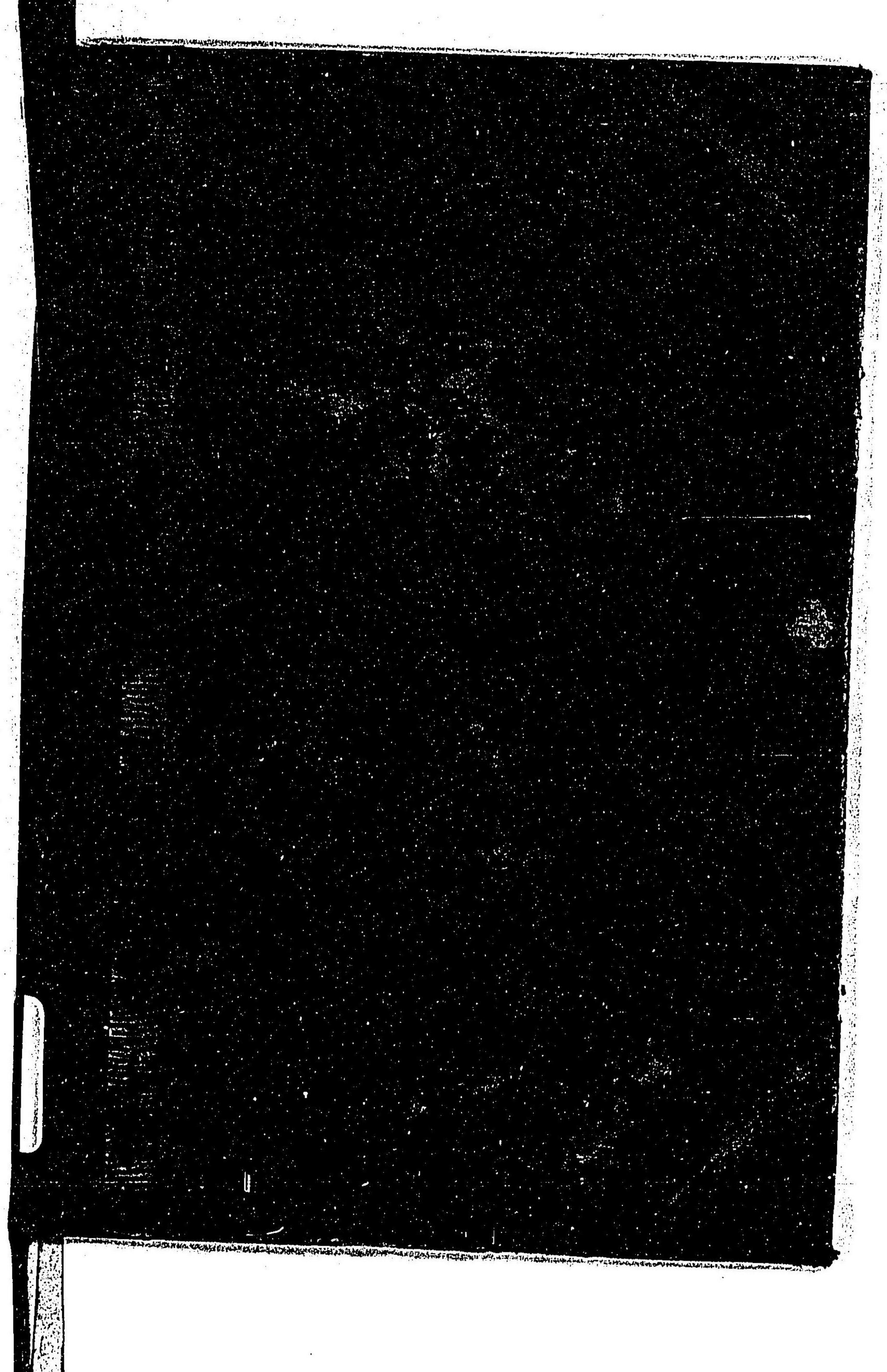
福島縣士族

井深 梶之助

東京麻布區筭笥町三番地

定價四角

33
140



33
140

020823-000-3

33-140

人性論 一名, 人学

アメルマン/著

M19

ABI-0649



